

平成 30 年度 花火産業構想アクションプラン 事業実績

施策 1 花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す拠点づくり

No.	事業名称	平成 30 年度の実施内容	評価	KPI (30 年度)	30 年度決算額	推進 交付金 の活用
1-1	大仙市花火伝統文化継承事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアグループ「花火伝統文化継承プロジェクト」との協働により、収集した花火関連資料を花火伝統文化継承資料館に移設・整理・保管 ・資料のデジタル化作業を継続。プログラム、ポスターを中心に約 6,000 点(全資料の約 40%)が完了 ・記録並びに公開用として第 92 回全国花火競技大会撮影・映像制作を実施 ・資料館専用ホームページの更新 	<ul style="list-style-type: none"> ・31 年 3 月末時点での来館者数は 45,538 人となっており目標(43,000 人)を達成。内訳は花火伝統文化継承エリアが 32,358 人、生涯学習エリアが 13,180 人 ・31 年 3 月末時点で約 15,851 点の資料を収集 	——	14,057 千円	—
1-2	(仮称)花火伝統文化継承資料館整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・建設工事(29 年 6 月～30 年 5 月)を実施 ・藤城清治氏作品「大曲の花火」を購入 ・竣工式、開館記念式典の実施 ・壁面に「大曲の花火」の題字パネルを設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築工事は大きな支障もなく進捗し、予定通り 30 年 8 月 5 日に開館 	——	388,715 千円	—
1-3	花火文化資料展示事業(大仙市産業展示館等での企画展示)	<ul style="list-style-type: none"> ・30 年 8 月 5 日の開館に伴い、資料館 3 階にて「大曲の花火 プログラム・ポスター展」、別館(旧産業展示館)にて「ありがとう 大曲の花火の発展を支えた全国の花火師たち」を開催 ・31 年 2 月 5 日より大曲・土浦・長岡花火展を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展示では「花火グッズ展」、「おもちゃ花火展」など、細かな展示替えを実施しており、今後も「生きている資料館」として、何度来ても楽しめるよう展示内容の充実を図っていく 	——	1,987 千円	—
1-4	花火イベント等情報発信事業	<ul style="list-style-type: none"> ・市コミュニティ FM「FM はなび」で「大曲の花火」情報を中心に、各地花火大会や花火の鑑賞方法に関する情報番組「花火の星」等を毎週月曜・木曜に放送(月曜は全国 100 局ネット放送) ・四季の「大曲の花火」の際に会場から生中継 	<ul style="list-style-type: none"> ・花火専門番組「花火の星」は花火愛好者に人気を得ている。全国ネット放送やインターネット視聴により、市外・県外からの反響も大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ■観光入込客数(目標) 272.0 万人(実績) 263.1 万人 	2,938 千円	○
1-5	まちなか花火デザイン導入事業	(平成 29 年度は取組内容なし)	——		——	—
1-6	まちなか花火シアター事業	<ul style="list-style-type: none"> ・大曲ヒカリオの健康福祉会館壁面を使い、ニューイヤー花火開催時等に花火映像を映写 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントにあわせ継続的に映写し、観光客の増加につなげる必要がある 		——	—
1-7	花火庵運営事業(中心市街地にぎわい創出事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の賑わい交流施設「花火庵」を設置。NPO 法人大曲花火倶楽部による資料展示スペース「大曲花火屋」の開設等により花火情報を発信 ・資料館開館にあわせ、花火鑑賞士紹介コーナーを資料館別館に移設 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧「花火庵」は市民サークル等により有効活用が図られており、交流施設として運営を継続する 	<ul style="list-style-type: none"> ■観光入込客数推移 H26 年度 263.1 万人 H27 年度 261.6 万人 H28 年度 264.3 万人 H29 年度 276.6 万人 H30 年度 263.1 万人 	3,258 千円	—
合 計					410,955 千円	

施策2 花火を支える人材育成・研究開発の場の創出

No.	事業名称	平成30年度の取組内容	評価	KPI(30年度)	30年度決算額	推進 交付金 の活用
2-1	花火師育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生向けに足利大学煙火学出前講座を開催(30年9月11・12日、大曲工業高校、大曲農業高校、六郷高校 受講者計93名) ・大曲農業高校の林業専攻の生徒を対象に、花火原料用マツ炭の炭焼き体験事業を実施(30年11月26日、旧西仙北スキー場、参加者25名) ・花火師向けスキルアップ講座を31年3月27日に開催。講座テーマは「火薬類の仕組みと危険性」(職業訓練センター 受講者89名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・火薬類製造・取扱資格取得講座は講師日程都合により開催できなかったが、新規に炭焼き体験事業を実施。高校生向け、花火師向け講座は計画どおり開催している ・資格取得講座を含む人材育成については、花火会社の意見を取り入れながら、内容を検討しつつ継続したい 	<ul style="list-style-type: none"> ■火薬類製造(取扱)保安責任者資格者数0人(H26) →29人(H30) →50人(H31目標) 	188千円	○
2-2	花火師確保支援事業	(平成30年度は取組内容なし)	<ul style="list-style-type: none"> ・花火会社及び求職者双方の意見を伺いつつ、就職者増につながるマッチング事業を検討する必要がある 	—	—	—
2-3	花火の共同研究・開発事業	(平成29年度で事業完了)	—	—	—	—
2-4	花火学習プログラム展開事業	<ul style="list-style-type: none"> ・全国花火競技大会開催時に行われている「花火鑑賞士による花火セミナー」を30年度はこれまでの花火庵と大曲技術専門校に加え、花火伝統文化継承資料館にて開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・花火セミナーは花火大会開始までの日中の過ごし方のひとつとして、より花火に理解を深め、次回以降も継続して訪れるきっかけとなりうる ・継続的、安定的なセミナー開催のため、講師を担う人材の確保が課題 	<ul style="list-style-type: none"> ■観光入込客数(目標)272.0万人(実績)263.1万人 	—	—
合 計					188千円	

施策3 日本屈指の花火製造・打上技術を基盤とする新たな花火生産拠点づくり

No.	事業名称	平成30年度の取組内容	評価	KPI(30年度)	30年度決算額	推進 交付金 の活用
3-1	花火工場運営会社設立事業	(平成27年度で事業完了)	——	——	——	—
3-2	花火生産拠点整備事業(工場・事務所・研修施設)	(平成29年4月11日に煙火製造工場が竣工) ・(株)花火創造企業が2.5号から5号までの「冠菊」を製造し、県内外の花火業者への販売	・29年度に課題となっていた冠菊の火足の長さの調整については改善され、品質向上と安定化が図られた ・求人に対して応募者数が少なく、供給力不足の要因となっている ・今後は製品の認知度の向上のため、営業の強化を図る必要がある	■花火生産拠点での花火玉出荷数 0発(H26) →15,851発(H29) →23,832発(H30) →330,000発(H31目標)	——	—
3-3	花火生産拠点整備事業(用地造成・雇用助成)	(平成28年度までに用地造成は事業完了) ・(株)花火創造企業が30年度に新規に雇用した3名を対象に市は雇用助成を実施(800千円×3名)	・雇用計画に基づき、ハローワークを通じて随時求人をしているものの、応募者数が少なく、人手が足りない状況となっている ・仕事の内容をより具体的に記したパンフレット等を制作し、より花火の仕事に関心のある応募者確保につなげていく	■花火生産拠点での雇用人数 0人(H26) →14人(H29) →17人(H30) →26人(H31目標)	2,400千円	—
3-4	花火イベント企画運営サポート事業	・(株)花火創造企業が「大曲の花火ー春の章ー」、「第92回全国花火競技大会」、「大曲の花火ー秋の章ー」、「大曲の花火ー冬の章ー」にて、観覧会場設営及び管理業務、打上会場管理業務、海外花火業者招聘業務などの運営サポートを実施	・引き続き各花火大会の運営を手掛けるとともに、市内外における花火イベントの企画提案・運営を行い、収益事業の拡大を目指す必要がある	——	——	—
合 計					2,400千円	

施策4 花火ブランドを活かした観光・商業・農業振興策の強化・拡充

No.	事業名称	平成30年度の実施内容	評価	KPI(30年度)	30年度決算額	推進 交付金 の活用
4-1	花火工場と周辺既存施設を活用した通年観光の推進事業	(平成30年度は取組内容なし)	——	——	——	—
4-2	「花火のまち・大仙」キャラバン隊事業	・有楽町駅前広場「大仙市ふるさとフェア 2018 in 有楽町」(9月)、台東区浅草「まるごと秋田だいせん in 浅草」(11月)など、首都圏で本市の観光物産をPRするキャラバン活動を実施	・四季の「大曲の花火」のPRを中心としたキャラバン活動により、本市物産の販売促進において相乗効果が得られている ・時間的、金銭的に余裕があり、消費意欲が高い層を重点的なターゲットとして明確にし、首都圏からの誘客と物産の売上増加を図っていく必要がある	■観光入込客数 (目標) 272.0万人 (実績) 263.1万人 ■観光入込客増加による経済波及効果の増加額 (目標) 23億4,400万円 (実績) 1億3,500万円	4,853千円	○
4-3	花火の観光商品開発事業	・市が大仙市観光物産協会に委託し、参加者に花火を軸とした本市ならではの四季折々の体験をしてもらうモニターツアーを2回催行(30年9月、31年3月)	・花火大会と組み合わせた体験ツアーは参加者から好評を得ている ・ツアー参加者からのアンケートを事業者等にフィードバックするとともに、本市観光資源の強みを分析し観光商品の開発につなげていく必要がある	(目標) 23億4,400万円 (実績) 1億3,500万円	330千円	—
4-4	「HANABI」インバウンド推進事業	・台湾を対象とした秋田県知事トップセールス(30年8月)に参加したほか、大仙市長トップセールス(31年2月)を実施 ・台湾において、日本政府観光局等の主催による東北PRイベント(30年12月)及び旅行エージェント商談会(31年2月)にブース出展する海外販路開拓事業を実施 ・四季の「大曲の花火」等にあわせ、台湾・タイのメディア関係者、旅行エージェント計14名が本市を視察する招聘事業を実施 ・JR大曲駅内および市内各所の既存案内看板・誘導看板の多言語化を実施	・トップセールス及び海外販路開拓事業では現地大手旅行会社、旅行関係団体、消費者等を対象に「大曲の花火」をはじめとした本市観光資源をPRしており、31年4月の秋田空港への台湾チャーター便就航とあわせて、本市への誘客効果が期待される ・招聘事業では、31年2月末時点で、メディア関係者から、雑誌・ブログ記事、SNS等で約75,000人への情報発信が行われたほか、旅行エージェントからは4商品の提案を得ている		トップセールス 1,730千円 海外販路開拓 2,198千円	○
4-5	花火ブランド一元化組織づくり事業	(平成30年度は取組内容なし)	——	——	——	—
4-6	「花火のまち・大仙」のアンテナ・ショップ整備事業	(平成30年度は取組内容なし)	——	——	——	—
					招聘事業 4,349千円 看板多言語化 1,867千円	—

No.	事業名称	平成 30 年度の取組内容	評価	KPI (30 年度)	30 年度決算額	推進 交付金 の活用
4-7	「花火のまち・大仙」の「ひとくちお土産」開発事業	<ul style="list-style-type: none"> ・大仙市観光情報センターにて、29 年度に「せんのぜん」ブランドとして認証された大仙市産農水産物を原材料とする 7 商品の販売を開始 ・31 年 3 月末時点での総販売額は 250 万円 ・30 年度は新規に 3 事業者の 4 商品を「せんのぜん」ブランドとして認証 	<ul style="list-style-type: none"> ・新ブランドの販売開始により、観光物産協会全体のお土産品売上額の向上につながっている ・広く事業者へ参加を呼びかけ、商品拡充と PR、販売強化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ■お土産品売上額 (目標) 28,100 千円 (実績) 32,481 千円 	5,397千円	○
4-8	花火のまちのまるごとスタンプラリー開催事業	<ul style="list-style-type: none"> ・大仙市商工会が市内 4 花火大会(8 月「全国花火競技大会」、9 月「神岡南外花火大会」、10 月「大曲の花火ー秋の章ー」、2 月「太田の火まつり」)を巡るスタンプラリーを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より 59 名増の 213 人が応募(うち県外 93 名)。県外からの応募が 4 割以上を占め、集客に一定の効果があった ・全スタンプを集めた方全員へ特別賞として大仙市の特産品を贈呈したことにより、市の PR とともに地元産の特産品を周知する機会となった 	<ul style="list-style-type: none"> ■観光入込客数 (目標) 272.0 万人 (実績) 263.1 万人 	1,018千円	—
4-9	「花火のまち・大仙」のネット・カタログ通販開発事業	<ul style="list-style-type: none"> ・大仙市観光物産協会が 28 年度から楽天市場内に「大仙市公式アンテナショップ」を出店し、インターネット販売を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・30 年度のインターネット販売売上額は 31 年 2 月末時点で 4,277 千円となっており、29 年度の年間売上額 3,294 千円を上回っている ・売上増加とともに客単価を上げる定期的な広告掲載やポイントアップキャンペーン等の工夫が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■お土産品売上額 (目標) 28,100 千円 (実績) 32,481 千円 	—	—
4-10	「メイドイン大仙」の花火玉原料開発・普及事業	<ul style="list-style-type: none"> ・市、大仙市観光物産協会、大曲の花火協同組合、秋田県立大学が共同で、花火用に適したマツ炭の条件等について研究 ・大仙市観光物産協会が事業主体となり、花火原料用のマツ炭を生産 ・31 年 1 月に(株)花火創造企業による炭粉碎施設の整備が完了 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究事業では、カラマツとスギの利用可能性を調査したほか、製品化した炭の品質確認のための工業分析手法を研究 ・平成 31 年 2 月末時点で、約 9,300 キロ(累計)のマツ炭の生産を完了 ・粉碎施設の整備が完了したことから、今後は自社利用のほか県内外へとマツ炭の供給網を広げていく必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ■原料の研究による試作玉開発数 (目標) 2 種類 (実績) 2 種類 	研究事業 1,995千円 生産運営費補助 1,750千円 粉碎施設整備 36,510千円	○
4-11	「大曲の花・美(はな・び)」開発事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに「紫ながれ(むらさきながれ)」「明変化(あかへんげ)」の 2 品種を開発し、大曲の花火ダリアは計 10 品種となった ・JA 秋田おばこにより苗の増殖が行われ、ダリア部会員への栽培普及が進められている ・県立農業科学館で栽培展示 	<ul style="list-style-type: none"> ・大曲の花火ダリア 10 点のラインアップ整備に向けて順調に開発・増殖が推移。実需者への周知や市場評価を高め、地域ブランド化を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ■お土産品売上額 (目標) 28,100 千円 (実績) 32,481 千円 	4,151千円	○

No.	事業名称	平成 30 年度 of 取組内容	評価	KPI (30 年度)	30 年度決算額	推進 交付金 の活用
4-12	国際花火シンポジウム誘致推進事業	(平成 30 年度は取組内容なし)	——	——	——	—
4-13	大曲の花火ウィーク開催事業 (だいせん「花火」と「食」のおもてなし事業)	・30 年 8 月 19、23、24 日に「大曲の花火」開催にあわせ丸子橋特設会場で実施。内容は『日替わり花火 SHOW』、『街中音楽 Show』、『ご当地グルメ王国秋田』など	・花火大会に訪れる多くの観光客から、本市の地域資源と中心商店街等の魅力を広く認識していただき、継続的な賑わい創出につなげていく必要がある	——	5,795千円	—
4-14	市内で開催される花火大会等への運営支援	・全 12 箇所の市内各花火大会やイベントにおいて運営費補助の交付または花火打上委託を実施	・スタンプラリー開催事業等と組み合わせ、「毎月花火が打ち上がるまち」として市外への積極的にPRを行い、観光客数の増加につなげていく	■観光入込客数 (目標) 272.0 万人 (実績) 263.1 万人	27,095千円	—
4-15	「花火のまち・大仙」を支える応援購入制度	(平成 30 年度は取組内容なし)	——	——	——	—
合 計					98,720千円	